地域連携講座
南西部・川越比企地域

監修

光の家療育センター

施設長　鈴木郁子　氏

講師の皆様
光の家療育センター　小児科　橋本和美　氏
光の家療育センター　作業療法士　小川いづみ　氏
川越市児童発達支援センター　の皆様
坂戸市立市民健康センター　母子保健係　保健師　大井弘子　氏
児童家庭支援センターシャローム　主任相談員　野澤怜美　氏
相談支援センターワンダーハウス　相談支援専門員　中込理恵　氏
川越市立福原小学校　教諭　山崎るみ　氏
南西部地域療育センター　言語聴覚士　中島悠紀　氏

監修:南西部川越比企1

- 光の家療育センターの橋本先生からは、診察室での医師の診察の仕方に子どもだけでなく親も見ている話からはじまり、ADHDのライフサイクルからの視点、自閉症圏の話し、最後にはやはり自己肯定感の大切さの話しで締めくくられました。
- 光の家療育センターの小川先生からは、発達障害のお話から、感覚統合の話、OT訓練の実際の小技まで丁寧にお話しいただきました。
- 川越市児童発達支援センターの先生方々からは、相談事業、巡回事業、親子教室、通園事業など多岐にわたる事業のお話がありました。
- 坂戸市立市民健康センターの大井先生からは、保健センター業務の詳しいお話がありました。健診の他に親子教室、発育発達相談など事業を通して、保健師さんとして大切にしたいことに母親に寄り添うことを上げていられました。

監修:南西部川越比企２

- 児童家庭支援センターシャロームの野澤先生からは、沿革の説明より歴史的な理念の醸成が伺われました。養護施設やホームと隣接していることで普通の家庭生活から逸脱してしまった家族への温かいまなざしを感じました。事業展開も研修事業や市民活動への参加など多岐にわたるようです。その中で、壊れそうな家族のとらえ方が関係性というとらえ方で、親子についてもどちらかが正義でどちらかが悪者でなく、関係性としてとらえていく視点に温かい安心感が底流にあるように感じ、すくわれた家族がどれだけいるかと思いをはせました。
- 光の家療育センター（ワンダーハウス）の中込先生からは、相談事業の概略の説明とじれのお話があり、家族のペースに合わせた支援というフレーズが印象的でした。

監修:南西部川越比企３

- 南西部地域療育センターの中島先生からは、地域療育センターの事業の説明、特に相談アセスメントについてご丁寧な説明がありました。
- 福原小学校の山崎先生からは、先生の教師の立ち位置でなく人生に影響を与えた子どもたちのお話をお聞きし、大変共感と改めて子ども力について再認識しました。特に「人間は本来頑張る生き物」というベースラインをしっかり持ってらして、なぜ頑張れないかという視点で子どもを捉えるというお話に、みな先生みたいに考えてもらえるとどれだけの子が安心感の中で力が発揮できるかと想像してしまいました。技術よりその温かいまなざしがその子の生きる力になるんですよね～。

監修:南西部川越比企４

- 本日の研修を受けていただき、南西部川越比企地域の資源の質の高さを感じました。たくさんの職種についてまず理解していただき、そのうえで皆様が今、気になっているお子様、ご家族の支援のためにどこの点でも構わないので、つながっていただき、点が線へ、線が面になっていくことを願っています。本日の講師陣からは、皆様のお住まいの地域の文化度の質が強化されていくことが確認できました。

ありがとうございました。